

大会名称: 第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会

開催場所: Al Shabab Arena(アラブ首長国連邦・ドバイ)

試合区分: No. 125 男子 決勝トーナメント

コミッショナー: Goran RADONJIC (FRA)

期 日: 2014(H26)年8月12日(火)

主審: Saverio LANZARINI (ITA)

開始時間: 14:15

副審: Ricardo HAYLES (JAM), Zhoobin JALILI (IRI)

終了時間: 15:50

<h1>アメリカ</h1> <p>(通算4勝0敗)</p>	<p>○</p> <h1>122</h1>	<p>41 -1st- 6 34 -2nd- 11 27 -3rd- 14 20 -4th- 7 -OT1- -OT2- -OT3-</p>	<p>●</p> <h1>38</h1>	<h1>日本</h1> <p>(通算0勝4敗)</p>
-------------------------------	-----------------------	--	----------------------	-----------------------------

第3回FIBA U-17男子バスケットボール世界選手権大会が大会3日目。決勝トーナメント16ラウンド 第1戦はアメリカと対戦。

1ピリオド

アメリカはオールコートマンツーマン、ハーフコートマンツーマンでスタートし、インサイド、アウトサイドともに積極的に攻撃。スタートから一方的に日本を突き放し、開始5分で22-0と大量リード。日本は残り5分で#14八村のジャンプシュートが決まり、初得点。その後、#14八村もダンクを決めるが、アメリカのスピードと高さのあるディフェンスに攻めるチャンスが作れず、1ピリオド6-45で終了。

2ピリオド

引き続き#14八村がシュートが2本決まるも、ディフェンス・オフェンスとも、アメリカに主導権を握られる。日本は、タイムアウトを取り立て直しにかかる。その後、#12軍司の体を張ったディフェンスが機能し始め、アメリカに簡単にシュートを打たせないようになる。その#12軍司が、リバウンドシュートからファウルを誘い、フリースローを一本決め、日本も攻撃のチャンスを少しずつつかむ。しかし、アメリカの多彩な攻撃に日本は苦しめられ、17-75で終了。

3ピリオド

後半、日本はパスを素早く回しながら、攻撃の起点を探り始める。#7武藤や#15平岩のシュートが決まるも、アメリカは攻撃の手を緩めない。#10牧や#11河野のシュートも決まり、シュートにまでたどり着く機会は増えるが思うように得点できず、31-102と大きく引き離される。

4ピリオド

アメリカは、ディフェンスを3-2や1-3-1のゾーンに切り替える。日本は、より体を張ったディフェンスでアメリカのインサイドを苦しめる場面も見られたが、#14八村、#4前田のシュートが決まるも、終始主導権を握られたアメリカに38-122と完敗した。

日本は本日の敗戦により、9位~16位決定戦トーナメントへ進む。1日休息日をはさみ、次戦は14日に行われる。

担当: 公益財団法人日本バスケットボール協会